

おけさ柿



柿は、大きな柿1個で1日に必要なビタミンCを摂ることができるほど栄養豊富な果物。新潟の柿は「おけさ柿」と呼ばれ、味、形とも県内外から高い品質評価をいただいています。主な栽培品種は、平核無(ひらたねなし)と刀根早生(とねわせ)という種無し品種。実は、全国各地で栽培されている平核無の原木は新津にあります。種のないことが越後七不思議の次に珍しいという意味で、「八珍(はっちゃん)柿」の名がついています。阿賀野市笹神地区では開墾地の荒廃対策として昭和30年代から栽培を開始。今では全国でも珍しい、伝統的なアルコール脱渋による、なめらかな食感とジューシーな果肉が自慢です。



出荷時期

出荷時期：9月下旬～11月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

JA新潟かがやき管内収穫地域

- ①新潟市秋葉区(新津・小須戸) ②新潟市西蒲区(巻)
③阿賀野市(笹神)

知っ得! 豆知識

熟れ過ぎてしまった柿は、そのまま冷凍するとシャーベットのようになめらかに食べることができて便利です。

越王おけさ柿

新潟市西蒲区(巻地区)は、佐渡に次いで県内第2位の出荷量を誇る産地です。平核無(ひらたねなし)と刀根早生(とねわせ)という実の中に種が無い渋柿の2品種を採用。地元では、種のないことが越後七不思議の次に珍しいという意味で、「八珍(はっちん)柿」の愛称でも親しまれています。栽培には、肥沃な大地と太陽の光をたっぷりと浴びることのできる山の斜面を利用。とろけるような上品な甘さと柔らかい肉質が特長で、その実には健康成分がたっぷり詰まっています。

旬の時期：10月～11月

生産地：新潟市西蒲区(巻)

 JA新潟かがやき



ベビーパーシモン

渋柿の突然変異で生まれた極小の柿で、昭和56年(1991)頃に発見されたと言われています。主産地は新潟県と岐阜県。全国的に生産量の少ない珍しい品種です。一般的な「おけさ柿」の6分の1程度の大きさで、糖度は18度程度、種が無く、皮ごと食べることができます。阿賀野市笹神地区では平成28年(2016)から栽培に取り組み、現在、産地化を進めています。東京銀座の料亭での取り扱いなど、年々注目が集まっている新しい特産品です。

旬の時期：9月下旬～10月上旬

生産地：阿賀野市(笹神)

 JA新潟かがやき

